



日本銀行広島支店支店長
井上 広隆

「鉄道からみた中国地方の魅力」

2022年3月に日本銀行広島支店長に着任しました。中国地方との繋がりであれば、母方の実家が山口県（防府市）にあったこともあり、当地の食文化や言葉には子供のころから馴染んでいました。また、広島東洋カープを第一期黄金時代から応援しており、周南市出身の津田恒実投手の言葉「弱気は最大の敵」は私のモットーでもあります。

さて、実は私、鉄道ファンです。一応「乗り鉄」を自認していますが、乗って楽しむのはもとより、鉄道を通じて地域の経済・産業史に関する知見を深めるのも大きな醍醐味です。

例えば、「瀬野八」と呼ばれる山陽本線の瀬野－八本松間は日本でも有数の急勾配区間です。ここに線路を通した理由には諸説ありますが、日清戦争を控え建設期間を短縮するために直線的に線路を引いたことが急勾配の一因とも言われています。今でも上りの貨物列車は補助機関車（補機）が後押しするほか、登坂時の集電を安定させるべく架線が二重に張られているのは、ここならではのユニークな光景です。

公共事業による線路の付け替えも興味深いところですが、例えば、広島市や福山市を水害から守るための太田川放水路や八田原ダム建設により、可部線や福塩線は新線に付け替えられました。今はなき旧線を思いつつ新線を旅するのも楽しいものです。なお、旧線がダム湖に水没するため新たに掘られた八田原トンネル（河佐－備後三川間）は、単線トンネルとしてはJR西日本管内で最長

（6.1キロメートル）を誇るという、実は大変貴重な鉄道構造物なのです。

鉄道をネットワークとして捉えると、その結節点としての象徴的な存在が転車台です。蒸気機関車（SL）の時代にはSLを終着駅で方向転換することが必須であり、そのための転車台が各地に整備されました。現在でも、米子、津山、新山口、津和野などに残されていますが、中でも米子と津山には扇形車庫を備える本格的な転車台があり、津山については「まなびの鉄道館」として地域観光の柱になっています。

ややマニアックな視点から産業と鉄道の歴史を味わううえで、軌条、すなわちレールは重要なアイテムです。かつてレールは八幡製鐵・八幡と富士製鐵・釜石で生産されていましたが、製鉄業界の大合併に伴う生産移管などを経て、今では主に日本製鉄・八幡とJFEスチール・福山で作られています。レールをよく見ると「製造年」と「メーカー名」が刻印されており、そうした刻印から目の前の鉄道の歴史に思いを馳せるのも感慨深いものです。

これからの中国地方では、人口減少や脱炭素化といった時代の流れを踏まえつつ、公共交通機関としての鉄道の役割について議論が深められていくと思われます。私としても、鉄道を通じて中国地方の魅力を再発見し、地域経済の発展に向けて中央銀行の立場から議論に貢献してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



広島貨物ターミナル駅と筆者